

敷島南小学校関係者評価書

令和5年2月24日（金）

敷島南小学校学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和5年2月21日（火）午前10時45分～12時20分

会場：敷島南小学校多目的室

参加者：（学校関係者評価委員）

学校評議委員：浅原千恵子 土橋満 秋山佐和子 岡島一浩 森本清

※当日欠席した方におきましては紙面にて協議していただきました。

PTA 会長：横森真美

（学校側）

校長：丸茂和也 教頭：坂本なおみ 教務主任：伊藤浩史

I 学校側から提案された内容

○自己評価結果及び保護者、児童アンケート結果と今後の方針について

◇推進継続してきた事項及び継続していきたい事項

- ・教職員の統制、信頼関係のもと連携・協働した教育活動の取組
- ・児童の学力向上につながる授業実践・授業改善
- ・友達と仲良くし、進んで学習し、学校生活を楽しむ児童の姿
- ・児童の規範意識の向上

◇改善・一層充実していきたい事項

- ・児童との積極的対話や関わり、保護者との連携を密にとり信頼関係の構築
- ・児童が友達や教職員に、保護者が教職員に何でも相談できる体制づくり
- ・自主的な家庭学習（宿題以外）向上への取組
- ・児童の道徳性のさらなる育成のため、「特別の教科 道徳」の趣旨を生かした学校全体での道徳教育の充実

II 協議された主な内容

○学校教育目標に関して・学校経営について

（学校関係者から）

- ・全教職員が学校教育目標に基づき、連携・協働して学校運営に取り組んでいる。
- ・PDCA サイクルを短期的・中長期的に継続して行い、よりよい成果が出る活動としていくとよい。

○学校運営について

- ・学校運営に教職員一人一人が参画している学校だということが分かった。

- ・学校は安全安心で生活できることが望ましい。様々な危険を予測して実際的で効果的な訓練をこれからも大切に実施して欲しい。

- ・あいさつをする子どもたちがよく見られる。地域も連携してあいさつをし、伸ばしていきたい。

○学習指導について

- ・授業や行事を見て、どの学級も学年も落ち着いて楽しく学習していることが分かった。日々の積み重ねの成果とを感じる。

- ・ICT(クロムブック)を取り入れた授業がよく行われている。児童の操作技術も向上している。宿題などでクロムブックを持ち帰る機会を増やしたり、各お便りで活用状況を知らせたりして、ICTの充実状況を保護者により理解してもらえるとよい。

- ・家庭学習の取り組み方がよく分からないことがある。保護者とより連携し、家庭学習の習慣化を進めて欲しい。

○生徒指導について

- ・多くの児童は仲の良い友達がいるということがわかった。学校生活が楽しくなるよう友達づきあいの大切さをより教えていってほしい。

- ・いじめをはじめ問題行動を許さない校内の雰囲気づくりの継続。アンケート活用等で、いじめや問題行動の抑止、早期発見、迅速で正確な解消にこれからも努める。

○地域との連携について

- ・地域探検、公共施設利用、美術、福祉などの出前授業といった地域人材・施設の活用を活発に行ってきた。引き続き地域の教育力を生かしていく。

- ・コロナ禍において地域の行事が数年行えなかった。今年度は少しずつ活動に取り組んでみた。今後学校とも情報を共有して安全に配慮しながら取り組んでいきたい。

- ・安全な登下校のため、危険箇所の点検、役所へのお願いを通して道路への文字や看板の設置などをこれからも呼びかけていく。

- ・保護者と教職員の話せる機会をできるだけつくれるとよい。例えば授業参観後の懇談会で悩みや相談できる時間を増やしたり、メールなどICTの活用で相談したりすることも考えられる。

○学校の特色に関して

- ・特色として重視している学校行事、児童会行事、あいさつ、そうじ、読書への成果は出ている。継続して積極的に取り組んでいけるとよい。

○その他

- ・今後とも学校長を中心に教育体制をよりしっかりと構築して、学校、保護者、地域全体で子どもたちを育てていきたい。

＜学校関係者評価書＞

I 全体評価

- ◇ 教育活動の実践に対する評価は、良好な水準にある。
- ・ 学校教育目標、教育課程に基づいた学習指導、生活指導等の学校運営が適切に計画的に実施されている。
 - ・ 基礎基本を重視した授業や個に配慮した少人数指導等きめ細かな学習指導が、推進されている。
 - ・ 授業において ICT(ク롬ブック)使用は定着してきており、児童が主体的に学習に取り組む姿が見られる。ICT を取り入れたより学習効果の高い授業づくりを進めている。
 - ・ 地域探検、地域の公共施設や会社などへの社会科見学、出前授業といった機会を設け、地域人材を活用した教育実践を行っている。
 - ・ あいさつ、きまりや約束をまもる、清掃活動の取り組みができ、子どもたちの生活の中で習慣化されている。規範意識の高い生活をしている。
 - ・ 学校安全計画では、あらゆる場面を想定した実地的な避難訓練の実施など臨場感のある訓練をしていた。危機管理意識の高い取り組みをしている。

II 特徴

◇教職員の自己評価より

全ての項目で肯定的な回答割合が高かった。学校長を中心として職員間の統制がとられており、互いの信頼関係が高い状態の中で、学校教育目標、学校経営方針を意識した教育活動が行われているといえる。

◇児童のアンケートより

ほとんどの質問項目で肯定的な回答が多い。学校行事、委員会など進んで取り組み、友達とも仲良くし楽しい学校生活を送っている様子がうかがえる。一方で、家庭学習の充実やわからないことを聞いたり意見を言えたりする表現力の向上や環境づくりもさらに進めていきたい。

◇保護者のアンケートより

ほとんどの質問項目で肯定的な回答が多く学校への信頼がうかがえる。一方で、家庭学習の充実への手立てをとること。日頃から保護者との連携を密にして何でも相談できる環境づくりをより進めることが必要である。

記載責任者（敷島南小学校 学校関係者評価委員） 氏名：横森 真美 印

